

エコと環境教育と低炭素のまちづくり(水車のあるまちづくり)

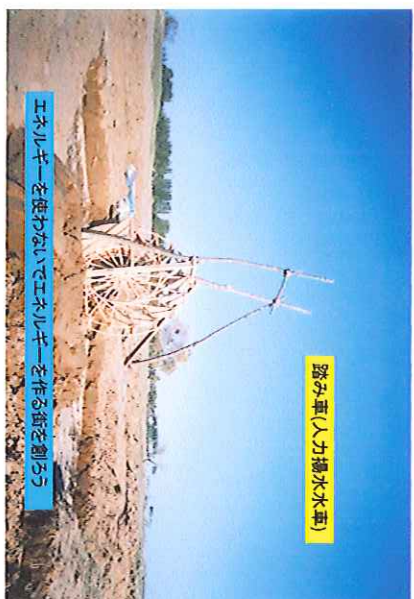
発展と言う名のもとに、便利で大量、安楽な暮らしを求めその結果、一時、大量消費は美徳の概念を生み、環境汚染、エネルギーの浪費にも無関心、その結果、教育の荒廃等を招いた。伝承技術や伝統産業を見直し、エコロジーの大切さを考えなければならない。

水車は川と水があれば稼働できる。エネルギーの浪費も環境汚染も無い。水車は水という自然のエネルギーを有効利用する事で、エコロジーの先頭を歩み続けて来ました。水車は日本の風土に適していると思われれます。また、子供たちに伝えれば水車が道具として生活の中に生かされることでしょう。西日本工業大学では環境プログラムで環境を守る理念と水と水車を生かす技術や自然との共生に学習しています。

現在日本では、今でも環境汚染やエネルギーの浪費、特に大量の食物が無駄になっています。河川等は整備が進み汚染は少なくなったが、もっと自然の河川を大切にしていく必要があります。川は川が持つ能力の範囲内であれば、自然の力で水を浄化してくれます。水車を回すことで、水の浄化を助け、汚染や公害の無い自然エネルギーを使う事ができます。

子供達も机上だけの教育では精神的な発育障害がおきていると思います。自然と共生できる街づくりへの参加をして、昔の仕事や暮らしを伝え残して体験できる事が必要では無いかと思います。しかし、環境教育の時間とれない子供達も多い。日生活の中で自然と共存している実践的な学習素材が少なくなって、便利で簡便な電子機器に変わり、電子機器に思考も生活も左右される生活になった。もっと、自然を見直し自然と共生できる生活を次世代の子供達に、懐古的な物でなく生活の一部として自分たちで作る、身近な学習と水車の有るまちづくりを提案したいと思います。

エコと環境教育と低炭素のまちづくり



山の整備で廃材となる間伐材を使用する



高校のエコエネルギー教育の発電水車

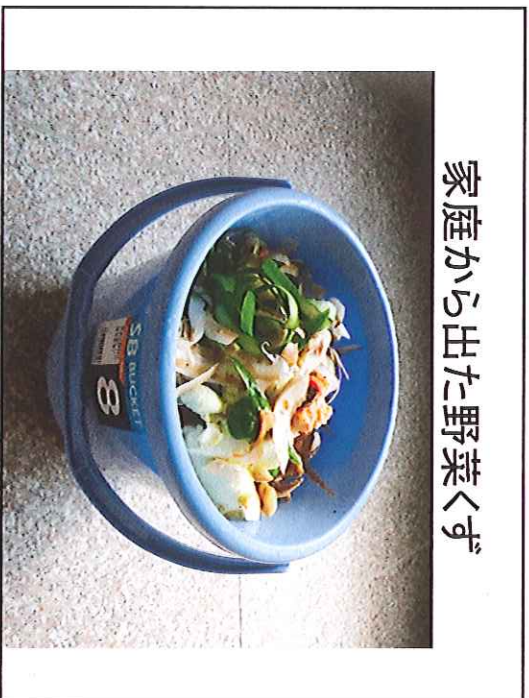


大学と小学校の環境教育で河川と共存を学ぶ手洗い水車の設置





生ゴミから堆肥を作る水車、発電にも使用



家庭から出た野菜くず



水車で生ごみを攪拌する為に作った廃棄プラム缶堆肥攪拌機

大学で発電水車製作



発電水車の完成



河川で水車発電



水車で発電した電気を、バッテリーに蓄電し、電気自動車等の充電ターミナルとして使用できる

河川に環境器用行く等で作った小型の水車を設置して、街の中で活動する電気自動車や電動バイク、電動自転車に無料で充電できる。
また、付近の防犯灯や照明に使用、太陽光発電とハイブリッドにすれば効果は大であるかと思う。



エコと環境教育と低炭素のまちづくり (補足説明)

1. 基本的に昔の道具や暮らしを参考に環境教育のあるまちづくりを行う。

2. 水車等昔活躍していた道具の見直しを学校と合同で行う。

3. 廃材廃物の足元から出来るリサイクルを行う。

水車、廃ドラム等による家庭生ごみの堆肥化、間伐材による小型水車の製作(学校で教材として作ったものを利用)し、ピコエネルギーの利用、エネルギーを使わずにエネルギーを作れば低炭素のまちづくりが、環境教育と同時進行で行える。

4. 間伐材を利用しての小型水車作りはピコ発電が出来る。

水車発電で24時間蓄電し、DC→ACに変換して、電動自動車、電動バイク、電動自転車、携帯電話等の無料充電ターミナルにまた、街の河川に数ヶ所に設置し、保安灯や街灯の設置に、

5. 河川殿共存は川を生活の一部であると認識することであり

学生や地域の年寄りが共同で芋洗い水車や小型水車発電水車の製作管理をすることで新しいコミュニケーションがうまれるかも知れない。